

福祉 × 林業 × 巡る

里山と森の保全団体との連携で
効率よい地域エネルギー循環を実現

≡(★注目ポイント★)≡

- 1 長野県の広葉樹林を活かし、定期伐採による森の循環・薪炭エネルギーの循環・人の循環に貢献するSDGs循環型林業の展開
- 2 技術が必要な仕事はプロに任せ、障がい者ができる仕事との分業で質の高い原木の確保が容易になり需要と供給のバランスを確保
- 3 地域の方々との協力で薪の販路が拡大し、障がい者のマンパワーで山間部集落へも宅配可能に。よって顧客満足につながり障がい者の工賃もアップ

社会福祉法人花工房福祉会
炭房ゆるくら
<http://www.hanakobo-fukushikai.jp/>
(長野県長野市)

あさかわの里山と森を守る会

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

所在地 〒388-8007
長野県長野市篠ノ井布施高田
823-2

TEL 026-293-5183

開設年 平成26(2014)年

実施事業 就労継続支援B型
(定員20人、現員18人)

主たる障がい 知的・身体・精神

利用者の平均年齢 33歳

福祉事業活動における
直接支援職員数 5人

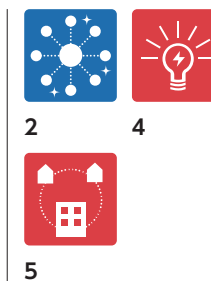
目標工賃達成
指導員の配置 有



概要

炭房ゆるくらは、地域住民有志による里山と森の保全団体と連携し、森林から伐採した間伐材を薪に加工する薪事業、薪の加工で出た木端や伐採で搬出した枝を焼いて発生した炭をキャンプ場で販売する炭事業、竹炭を使ったインテリアや炭石鹸などの炭商品の販売を行っています。

SELP Vision 2030



利用者数と活動日数 (令和3年9月実績)

1日以上参加した利用者数 12人

活動日数 23日

参加した延べ人数 252人

利用者の所属 | 就労継続支援B型事業

開始までの経緯

炭房ゆるくらは、開設当初から林業に取り組んでいました。地域住民に説明を重ね、住民組織である里山整備利用促進協議会に加盟することができ、長野県の里山整備利用地域活動推進事業の認定を受けることもできました。このことをきっかけに、平成18(2006)年に地域住民の有志により創られた「あさかわ里山と森を守る会」と連携した林業の取り組みが始まりました。守る会は長野市北部・浅川地区の景観維持と保全を目的に活動する集まりです。



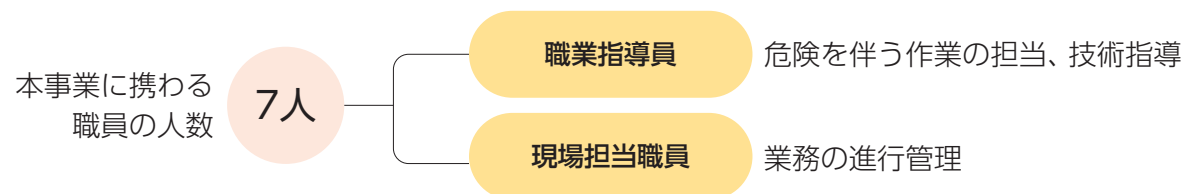
守る会と管理する里山

具体的な取り組み

炭房ゆるくらは、森林から伐採した間伐材を守る会と共同作業で搬出し、薪ストーブ用に加工します。薪ストーブのオーナーや薪ストーブを扱う店頭で販売する薪事業、薪の加工で出た木端や伐採で搬出した枝を焼いて発生した炭をキャンプ場で販売する炭事業、竹炭を使った炭のインテリアや竹酢液、炭石鹸などの炭商品の販売を行っています。

利用者は、職員と一緒に炭商品の製作や薪を乾燥させる「薪積み」の工程、薪の運搬・宅配などに携わります。

職員の役割



職業指導員 現場作業のうち特に危険な伐採等の作業を中心に、利用者に技術指導を行っています。

ほか、現場担当の職員は業務全体の進行を管理しながら、利用者と一緒に薪の運搬、薪割り、宅配業務などを分担します。伐採や玉切り作業*に携わり、チェーンソーを扱う職員は長野県の研修を受講します。

* 伐倒した原木を丸太として必要な長さに切り分ける作業



守る会との共同搬出作業(薪をトラックに積む)



乾燥工程(薪積み)

生産設備・備品等

チェーンソー、クローラー、薪割機、防護服、ワイヤー、梯子、ウインチ、軽トラ、2トントラック等を購入。購入にあたり、長野県森林税活用事業の助成金150万円(年)を活用しました。

今後、新規小型バックホー(小型ショベルカー)やユニック付きトラック(荷台にクレーンがついたトラック)などを購入することで、格段に工賃向上を実現することができると見込んでいるそうです。

工夫していること、心がけていること

日程調整 炭房ゆるくらは、守る会とできるだけ高頻度に打ち合わせをします。お互いが効率よく作業に臨むことができる日程を調整し、現場での作業日程を決めます。

職員への指導や研修の参加 チェーンソーを扱う職員は、長野県が実施する森林や竹林伐採の特別教育を受けます。現場作業は経験が必要かつ重要であるため、初めは炭房ゆるくらの所長が直接職員に指導します。

役割分担 効率的に業務をすすめる役割分担に工夫があります。守る会との連携で、危険を伴う伐採業務を知識・技能・経験が豊富なプロフェッショナルに任せられるようになり、業務の効率が格段に上昇したそうです。

暑さ対策・安全対策 こまめな水分補給、塩飴の提供、日陰での休憩など、暑さ対策に取り組んでいます。また、安全対策として原則、ヘルメットを着用します。

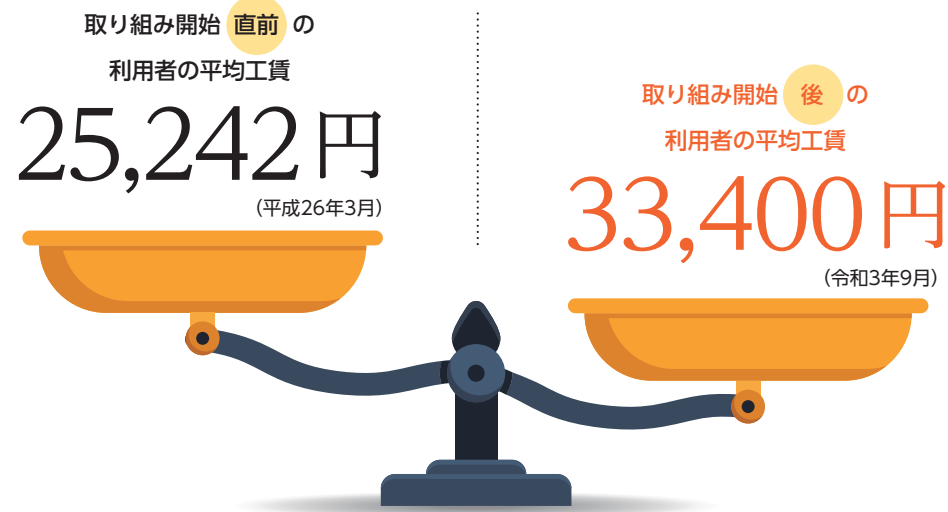
課題と対応

課題 販路拡大 → **対応** 薪や炭は基本的に地域の方に直接販売することが多いものの、複数のストーブ会社と連携することでより多くの方の購入につながるよう、販路拡大に努めています。

課題 連携先の高齢化 → **対応** 守る会メンバーの高齢化がすすんでおり、炭房ゆるくらはこの事業とともに関わる若年層の方を探しています。地域内に限らずより多くの方に取り組みを知ってもらうための広報や、新たな仲間づくりのためのワークショップ等の活動が、企画されています。

工賃の変動

守る会との連携により危険な作業を専門知識や技能、経験をもつ方に任せられるようになり、伐採した原木の確保が容易になりました。その結果、効率よく薪の絶対量を増やすことができ、工賃向上につながりました。



反応・効果

利用者の反応・効果

守る会の方と一緒に活動することで、地域の役に立っていることや地域住民の温かい見守りを実感することができ、プロフェッショナルとしての意識、自己肯定感の獲得につながりました。体力も増強したそうです。

職員の反応・効果

技術研修を経て現場経験を積むため、安全性を担保しながら生産性を上げる技術を身につけました。また、利用者や職員の作業の効率化・見える化・無駄のないルーティンのための作業アセスメントの作成も、日々の積み重ねで向上しました。

地域の反応・効果

地域に炭房ゆるくらの存在が浸透しています。街なかで住民から声をかけられたり、助けてもらったりするといいます。利用者の日常生活、暮らしやすさに好ましい影響です。

★ 展望・課題



守る会と炭房ゆるくらの展望は、地域の森づくりに貢献しながら、エネルギーの循環、人の循環、利用者、地域住民の働くサポート等、SDGsにも関連する素晴らしい活動がさらに展開するよう計画的に事業に邁進することです。

事業や、共同で取り組んでいることを多くの方に知らせる「見せる」工夫と、若い仲間を「増やす」工夫もすることが、結果的に利用者の工賃向上につながると考えています。

炭房ゆるくらのSDGsへの取り組み

長野県内は、東日本特有の広葉樹林が広がっており、木質資源が豊富な環境にあります。障がい者事業所である炭房ゆるくらが中心となって、社会貢献（高齢者雇用の創出）、障がい者の理解促進、薪炭製造を通した自然の循環を行っていることがSDGsの取り組みのひとつだと考えています。

